

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970500623
法人名	医療法人芙蓉会
事業所名	グループホーム芙蓉
所在地	山梨県笛吹市一宮町竹原田1359-1
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 23 日
評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 5年 2月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

桃畑・県立森林公園に隣接しており、春には桜、桃、夏には新緑、秋には紅葉狩りが楽しめ、施設内からも四季を感じることができる。また、広い中庭にはベンチがありゆったりとした時間を過ごす工夫がなされている。立地が良く徒歩圏内にショッピングセンターやホームセンターがあり気軽に買い物ができる環境となっている。自立支援介護に力を入れており、調理、炊事、洗濯、買い物など日常生活においてできることは自分で行い、職員が環境を整えることや、最低限の支援をすることで一つでも多くのことを自分で行えるような活動をしている。また、コロナ禍の収束が見られず、家族の面会も気軽に行えていない現状を踏まえ、管理者が社用携帯にてSNSアプリ(LINE)を活用、家族に日々の活動を画像で配信、積極的に情報共有し、家族にも喜ばれている。面会についてもビデオ通話、窓越し面会も予約制ではあるが日常的に行っている。

グループホーム芙蓉の理念に基づき、自立支援に力をいれ、自分らしく大切に生き抜く事を目指しています。感染対策に配慮され、お花見や敬老会、ミニコンサートや外出などを通じて、地域の人達と触れ合う機会を積極的につくっています。心と体を癒す手作りのアクティビティ、オシャレをしての外出により、笑顔を咲かせています。調理や掃除、買い物、外出等の生活支援を中心としたケアに努め、楽しさややりがいから管理者および全職員は、利用者の出来る「持ちうる力」に焦点を当てて支援を行い、理念の具現化に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム芙蓉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西館)	ユニット名(東館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所やフロアに掲示し、共有している。また、利用者目の届く場所にも掲示し職員がどのような理念で働いているかも認識してもらえようような実践方法をとっている。特に理念の一つにある「自分が使用したくなる施設」については日々、職員間で、このケアは自分が受けたらどう感じるか、どんなケアを受けたいか話し合う機会を多く設けている。	理念は事務所やフロアに掲示し、共有している。また、利用者目の届く場所にも掲示し職員がどのような理念で働いているかも認識してもらえようような実践方法をとっている。特に理念の一つにある「自分が使用したくなる施設」については日々、職員間で、このケアは自分が受けたらどう感じるか、どんなケアを受けたいか話し合う機会を多く設けている。	毎月のフロア会議において、理念に基づき不適切なケアはないか？この地域でその人らしく暮らすには？など、全職員で掘り下げて話し合い、大切にしています。理念は、利用者の目の届く場所や事務所、フロアに掲示され意識づけに努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣にショッピングセンター等もある事から、積極的に利用者と共に日用品や食品などの買い物を行っており、顔馴染みの関係が築けている。また、同町内の移動パン屋さんが来た時には利用者とともに食事前のパンを選び購入、販売員さんとの会話も楽しみの一つとなっている。	近隣にショッピングセンター等もある事から、積極的に利用者と共に日用品や食品などの買い物を行っており、顔馴染みの関係が築けている。また、同町内の移動パン屋さんが来た時には利用者とともに食事前のパンを選び購入、販売員さんとの会話も楽しみの一つとなっている。	近所のスーパーに買い物に行き、顔なじみになり挨拶を交わしています。又、地域の傾聴ボランティアの受け入れ、中学生や高校生の職場体験実習の受け入れも行っていきます。今後は、地域の人たちに認知症サポーター講座の開催を計画しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生・高校生の職場体験実習の依頼を受け入れている。認知症のお年寄りの接し方や病気に対する理解を深めて頂けるよう勤めているが、今年度は新型コロナウイルス流行により実施出来なかった。今後は、中庭に近隣、地域の方を集め、認知症サポーター講座を開催する予定であり、中庭の整備を進めている。	中学生・高校生の職場体験実習の依頼を受け入れている。認知症のお年寄りの接し方や病気に対する理解を深めて頂けるよう勤めているが、今年度は新型コロナウイルス流行により実施出来なかった。今後は、中庭に近隣、地域の方を集め、認知症サポーター講座を開催する予定であり、中庭の整備を進めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナウイルス流行の為、対面形式の開催は行ってないが、奇数月に書面による情報共有を行っていた。9月、11月にも行う予定であったが、新型コロナ感染症クラスターが発生(8月、10月)してしまい、通常業務が滞る事態となり、遅れて12月に活動状況の発信、意見収集を行った。	今年度は新型コロナウイルス流行の為、対面形式の開催は行ってないが、奇数月に書面による情報共有を行っていた。9月、11月にも行う予定であったが、新型コロナ感染症クラスターが発生(8月、10月)してしまい、通常業務が滞る事態となり、遅れて12月に活動状況の発信、意見収集を行った。	コロナ禍の中、書面による開催となっています。出された意見等はフロア会議に出され、更に意見をどの様に活かすか検討され、実施しています。運営推進会議の資料を家族等にも配布しています。又、外部評価の結果を報告し、意見等を今後サービスにどの様に活かしていくか、取り組む計画をしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力的な関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者に居室の空き情報等を伝える際、グループホームの活動状況を写真など分かりやすいツールを用い伝えている。市町村からも入居に関する問い合わせや相談があり、関係を築いている。また、コロナ感染クラスターが発生した後は市町村担当者が来所し、意見交換の場を設けるなど情報共有を密に行っている。	市町村の担当者に居室の空き情報等を伝える際、グループホームの活動状況を写真など分かりやすいツールを用い伝えている。市町村からも入居に関する問い合わせや相談があり、関係を築いている。また、コロナ感染クラスターが発生した後は市町村担当者が来所し、意見交換の場を設けるなど情報共有を密に行っている。	利用者の日々の暮らしぶりや事業所の活動等を伝えていきます。生活保護の方の受け入れも行っており、協力的な関係に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア会議、必要時、研修を開き身体拘束について学習や検討を実施している。身体拘束を行わない事が基本だが、やむを得ない場合、家族に相談、同意書を頂く事、普段から、SNSアプリ(以下LINE)を通じ入居者の現状を知って頂く事で信頼関係を深めている。また、主治医との連携を密にし心身の安定が保たれるよう支援している。	フロア会議、必要時、研修を開き身体拘束について学習や検討を実施している。身体拘束を行わない事が基本だが、やむを得ない場合、家族に相談、同意書を頂く事、普段から、SNSアプリ(以下LINE)を通じ入居者の現状を知って頂く事で信頼関係を深めている。また、主治医との連携を密にし心身の安定が保たれるよう支援している。	近くに川がある・・・国道がある・・・等の事業所固有のリスクを全職員で把握しています。日々のケアについて利用者一人ひとりについて、どのようにケアして行くことが大切かを全員で話し合い、又事故事例の検討や気づきを持つことの出来る研修を行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	フロア会議にて虐待の研修を行い、防止に向けて取り組んでいる。職員本人が気がつかないうちに虐待ではないかと思われる行為をしているときは、その場で言い合うことで職員の意識の向上に努めている。また、職員同士が意見を言いやすい関係を築くため、職員会議内でお互いの長所を言い合うなどの工夫をしている。	フロア会議にて虐待の研修を行い、防止に向けて取り組んでいる。職員本人が気がつかないうちに虐待ではないかと思われる行為をしているときは、その場で言い合うことで職員の意識の向上に努めている。また、職員同士が意見を言いやすい関係を築くため、職員会議内でお互いの長所を言い合うなどの工夫をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員それぞれが、法人内の研修会・市の連絡協議会・その他外部研修に参加し、学ぶ機会を設けている。参加できなかった職員には、後日伝達講習を通して伝え、職員全員が理解を深めるよう努力している。	職員それぞれが、法人内の研修会・市の連絡協議会・その他外部研修に参加し、学ぶ機会を設けている。参加できなかった職員には、後日伝達講習を通して伝え、職員全員が理解を深めるよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談、見学の段階から、施設の取り組みについて説明を行っている。契約の締結、解約などの際には入居者や家族の不安や疑問点を聞き、説明し、理解してもらえるように関わっている。	入居前の面談、見学の段階から、施設の取り組みについて説明を行っている。契約の締結、解約などの際には入居者や家族の不安や疑問点を聞き、説明し、理解してもらえるように関わっている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム芙蓉

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西館)	ユニット名(東館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の為、ご家族との面会の機会は減ったが、LINEを通して日々の生活の様子や心身状態をタイムリーかつ、リアルタイムに伝える機会を多く持った。家族も意見や要望を頻繁に伝えてくれるようになった。それを職員のグループラインにて発信し共有することでスピード感を持って運営に反映することができている。	コロナ禍の為、ご家族との面会の機会は減ったが、LINEを通して日々の生活の様子や心身状態をタイムリーかつ、リアルタイムに伝える機会を多く持った。家族も意見や要望を頻繁に伝えてくれるようになった。それを職員のグループラインにて発信し共有することでスピード感を持って運営に反映することができている。	コロナ禍の中、家族等や利用者との面会の希望が多くあり、LINEを通じて日々の様子を伝え、意見等を聴く機会を多く持っています。これらの意見等は、職員のグループLINEにて共有し、フロア会議にて話し合い、運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する事はフロア会議等で職員に伝えている。会議の中で職員の意見を聞き、検討、抽出した意見を上申し、共有した意見は運営に反映している。	運営に関する事はフロア会議等で職員に伝えている。会議の中で職員の意見を聞き、検討、抽出した意見を上申し、共有した意見は運営に反映している。	毎月のフロア会議や定期的を実施される面談時に、意見や要望等を聴いています。出された職員の気づきやアイデア等は正規職員会にて検討され、更にフロア会議で検討し、運営に反映するよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者は職員と話し合いをもっている。職員が無理なく勤務できるよう、ライフスタイルに合わせ時短就業、夜勤専従勤務などが選択できるよう工夫している。また、スキル、仕事に対する姿勢に合わせ時給アップを図るなどやりがいを持って働ける環境を整えている。	代表者や管理者は職員と話し合いをもっている。職員が無理なく勤務できるよう、ライフスタイルに合わせ時短就業、夜勤専従勤務などが選択できるよう工夫している。また、スキル、仕事に対する姿勢に合わせ時給アップを図るなどやりがいを持って働ける環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会や施設外の研修へ積極的に参加するよう促している。長期間の研修などは勤務の調整を行い、研修費用を負担するなど職員がスキルアップが行いやすい配慮を行っている。	法人内の研修会や施設外の研修へ積極的に参加するよう促している。長期間の研修などは勤務の調整を行い、研修費用を負担するなど職員がスキルアップが行いやすい配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	国道を挟んだ場所にある同法人には老人保健施設、通所リハビリ、短期入所介護などがあり、法人内の職員交流は盛ん。また、企業用SNSアプリを通じて頻繁に情報交換をしている。また、管理者がケアマネジャー・映東支部役員を務めており、他施設の情報を職員に共有、コロナ禍でなければお互いに見学の機会を設けている。	国道を挟んだ場所にある同法人には老人保健施設、通所リハビリ、短期入所介護などがあり、法人内の職員交流は盛ん。また、企業用SNSアプリを通じて頻繁に情報交換をしている。また、管理者がケアマネジャー・映東支部役員を務めており、他施設の情報を職員に共有、コロナ禍でなければお互いに見学の機会を設けている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの導入する段階で、本人の思いが表出できるよう、オープンクエスチョン、クローズドクエスチョン、非言語コミュニケーションなどを駆使、心身状態の観察も行い、困っている事、必要としている事を抽出、本人との関係が早期に築けるように努力している。また、ご家族からも本人の生い立ちや日頃から口にしていただことを聞き取る。	サービスの導入する段階で、本人の思いが表出できるよう、オープンクエスチョン、クローズドクエスチョン、非言語コミュニケーションなどを駆使、心身状態の観察も行い、困っている事、必要としている事を抽出、本人との関係が早期に築けるように努力している。また、ご家族からも本人の生い立ちや日頃から口にしていただことを聞き取る。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に、ご家族の思いが表出できるよう話し合いを持ち情報収集し、言葉に出来ない思いを推しはかり不安な気持ちに寄り添うことで、ご家族との関係が早期に築けるよう努力している。	サービス導入前に、ご家族の思いが表出できるよう話し合いを持ち情報収集し、言葉に出来ない思いを推しはかり不安な気持ちに寄り添うことで、ご家族との関係が早期に築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入段階で、入居者、家族の思いを聞き、希望に添うように努めている。一例としては、入居後の歯科往診、訪問理容サービス、歩行器や杖など、種福祉用具導入アドバイスなどがある。	サービス導入段階で、入居者、家族の思いを聞き、希望に添うように努めている。一例としては、入居後の歯科往診、訪問理容サービス、歩行器や杖など、種福祉用具導入アドバイスなどがある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の思いに寄り添い喜怒哀楽をともにし、利用者の「持ちうる力」に焦点をあて支援をする。どの部分に手を貸し、環境を整えれば、「持ちうる力を最大限に発揮し、自立した生活が営める」のか見極め、ともに暮らす者同士の関係を築いている。	入居者の思いに寄り添い喜怒哀楽をともにし、利用者の「持ちうる力」に焦点をあて支援をする。どの部分に手を貸し、環境を整えれば、「持ちうる力を最大限に発揮し、自立した生活が営める」のか見極め、ともに暮らす者同士の関係を築いている。		



自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム芙蓉

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西館)	ユニット名(東館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの支援は入居者にとって大きな喜びであり、ご家族も入居者の支えになっている事が喜びである。LINEを用いてご家族と情報の共有をリアルタイムに行い、入居者とご家族が今まで築いた関係性を大切にしながら、日々のケアを行っている。	ご家族からの支援は入居者にとって大きな喜びであり、ご家族も入居者の支えになっている事が喜びである。LINEを用いてご家族と情報の共有をリアルタイムに行い、入居者とご家族が今まで築いた関係性を大切にしながら、日々のケアを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス流行により面会は激減したが、手紙のやり取り、やり取りが難しい方には代読や代筆支援などを行っている。また、短時間ではあるが窓越し面会なども行っており、家族のみならず教職についていた方の教え子が面会に訪れたり、自宅で飼っていた愛犬を連れて来る家族がいたり関係が途切れない支援に努めている。	新型コロナウイルス流行により面会は激減したが、手紙のやり取り、やり取りが難しい方には代読や代筆支援などを行っている。また、短時間ではあるが窓越し面会なども行っており、家族のみならず教職についていた方の教え子が面会に訪れたり、自宅で飼っていた愛犬を連れて来る家族がいたり関係が途切れない支援に努めている。	利用者全員のフェイスシートを把握しています。コロナ禍の中、地域の人や友人との面会も短時間でできています。お墓参りや行きつけの美容院にも家族や職員が同行して、継続的に交流ができるよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を考慮し席順を配置。顔なじみの関係ができることで、お茶を淹れあう、洋服の着脱の手伝い、簡単なフロア内の移動、炊事、掃除を一緒に行うなど支えあう姿が多くみられている。	入居者同士の関係を考慮し席順を配置。顔なじみの関係ができることで、お茶を淹れあう、洋服の着脱の手伝い、簡単なフロア内の移動、炊事、掃除を一緒に行うなど支えあう姿が多くみられている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、ご家族が来所された際や、折りに触れ電話をする等して近況を尋ね「必要な支援をさせていただきます」と伝えている。現在も入院を理由に退所された方の家族と電話でやり取りを続けており、退院後の入所先を紹介するなど支援を継続している。	契約終了後、ご家族が来所された際や、折りに触れ電話をする等して近況を尋ね「必要な支援をさせていただきます」と伝えている。現在も入院を理由に退所された方の家族と電話でやり取りを続けており、退院後の入所先を紹介するなど支援を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の進行等により会話が難しい方、言葉に出来ない思いをもっている方の表情や言動の観察を行いオープンクエスチョンやクローズドクエスチョン、非言語的コミュニケーションを用い、入居者の気持ちに寄り添うケアが出来るよう努力している。また、ご家族からも生活歴や本人の普段の言動から想いを推し量り意向に添えるよう支援している。	認知症の進行等により会話が難しい方、言葉に出来ない思いをもっている方の表情や言動の観察を行いオープンクエスチョンやクローズドクエスチョン、非言語的コミュニケーションを用い、入居者の気持ちに寄り添うケアが出来るよう努力している。また、ご家族からも生活歴や本人の普段の言動から想いを推し量り意向に添えるよう支援している。	日々の関わりの中で、どんな時にどのような表情をするかなど、言葉を引き出せる言葉かけを行っています。一日の流れの中で、どんな時に嬉しい表情をするのか、何があって不機嫌になったのかなど記録に残し、本人や家族、職員等の関係者のチームで話し合い支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居が決まった時点で、生活歴、入居前の暮らし、ご家族との関わり方などを調べ職員全体で共有、入居後も日々の言動やご家族からの聞き取りなどで情報収集を絶えず行っている。	入居が決まった時点で、生活歴、入居前の暮らし、ご家族との関わり方などを調べ職員全体で共有、入居後も日々の言動やご家族からの聞き取りなどで情報収集を絶えず行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の入居者に日々チームとしてかわる中で表情や言動の観察を細やかにに行い、できないと決めつけるのではなく、どうすればできるかを職員が検討、共有し入居者の持っている力を最大限に引き出す努力をしている。	一人一人の入居者に日々チームとしてかわる中で表情や言動の観察を細やかにに行い、できないと決めつけるのではなく、どうすればできるかを職員が検討、共有し入居者の持っている力を最大限に引き出す努力をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度、入居者一人一人のケア会議開催、短期目標立案前には、担当者会議を開催している。利用者の変化や新たな課題などを発見し、ご家族との情報交換にも力を入れ、現状に即したケアが実践できるよう支援している。	月に一度、入居者一人一人のケア会議開催、短期目標立案前には、担当者会議を開催している。利用者の変化や新たな課題などを発見し、ご家族との情報交換にも力を入れ、現状に即したケアが実践できるよう支援している。	本人や家族等の意見を優先にして、日々のモニタリングを重視し意見交換、カンファレンスを行い、認知症の人でも地域で暮らし続けられる計画となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子を、誰が見ても理解できる手法、ツール(プリストスケール、記録画像など)を用い記録、プライバシーに配慮しながらグループラインでスピーディーに共有することで日々のケアに活かす介護計画の見直しの際にも活かされている。	利用者の日々の様子を、誰が見ても理解できる手法、ツール(プリストスケール、記録画像など)を用い記録、プライバシーに配慮しながらグループラインでスピーディーに共有することで日々のケアに活かす介護計画の見直しの際にも活かされている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム芙蓉

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西館)	ユニット名(東館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が求めているものは何かアセスメントを重ねニーズを見極め柔軟なサービスが提供できるよう支援している。希望者(必要と思われる方)には歯科往診、歯科衛生士訪問、訪問マッサージ、訪問理美容など主取り入れている。	利用者が求めているものは何かアセスメントを重ねニーズを見極め柔軟なサービスが提供できるよう支援している。希望者(必要と思われる方)には歯科往診、歯科衛生士訪問、訪問マッサージ、訪問理美容など主取り入れている。		
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、近隣の皮膚科、耳鼻科、歯科、病院、薬局、消防署、商店、民生委員、口調、ボランティアの力を借りている。	地域包括支援センター、近隣の皮膚科、耳鼻科、歯科、病院、薬局、消防署、商店、民生委員、口調、ボランティアの力を借りている。		
30	(11)	〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の希望がある場合には利用者ご家族の意向を尊重し、継続的な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医の希望がある場合には利用者ご家族の意向を尊重し、継続的な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医は、利用者、家族等の意向に沿っています。受診や通院は職員が行っていますが、受診後の情報交換は書面または口頭で伝えています。詳細は、LINEで行っています。受診等困難な利用者は、往診や訪問看護、訪問歯科を受診しています。	
31		〇看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が来所している。また、それ以外にも同法人の看護師との連携も取れており、スタマ使用の利用者の皮膚トラブルの処置なども行え、介護と看護の連携を密にすることで適切な医療や看護が受けられるよう支援している。	週1回訪問看護師が来所している。また、それ以外にも同法人の看護師との連携も取れており、スタマ使用の利用者の皮膚トラブルの処置なども行え、介護と看護の連携を密にすることで適切な医療や看護が受けられるよう支援している。		
32		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院する際は生活歴、家族関係、既往歴、現病、日々の生活の様子、ADLなどをご家族の承諾を得て、情報提供し、利用者に適した治療、ケアが受けられるように支援している。また、入院中の機能低下、環境変化による精神的不安を最小限にするため、短期間で退院ができるよう入院先の関係者と頻りに連絡を取り合い支援している。	入院する際は生活歴、家族関係、既往歴、現病、日々の生活の様子、ADLなどをご家族の承諾を得て、情報提供し、利用者に適した治療、ケアが受けられるように支援している。また、入院中の機能低下、環境変化による精神的不安を最小限にするため、短期間で退院ができるよう入院先の関係者と頻りに連絡を取り合い支援している。		
33	(12)	〇重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、ご家族、利用者に終末期の過ごし方、看取りの希望があるかなど確認する。入居後も日々変化する状態に対し、ご家族、各専門職が情報共有を密にし、終末期をどんなふうに通ごしたいか、見送りたいか、何を行うか、行わないのか確認しあい、ご家族の気持ちに寄り添えるよう支援している。	入居時、ご家族、利用者に終末期の過ごし方、看取りの希望があるかなど確認する。入居後も日々変化する状態に対し、ご家族、各専門職が情報共有を密にし、終末期をどんなふうに通ごしたいか、見送りたいか、何を行うか、行わないのか確認しあい、ご家族の気持ちに寄り添えるよう支援している。	事業所としての方針を、本人・家族等に伝えており、利用者に変化があるたびに話し合いを繰り返し、医療関係者とも連携を図っています。職員は、住み慣れた地域で見取りを行うことについての学習やストレスマネジメントを行い、なじみ関係の中での見取りケアに取り組んでいます。	
34		〇急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に備え、予測される対処法や、ご家族、各専門職の連携について潤滑に行えるよう職員会議で話し合っている。また、急変時のフローチャートも作成、各ユニットの見やすい位置に掲示、職員が共有できるようにしている。	急変に備え、予測される対処法や、ご家族、各専門職の連携について潤滑に行えるよう職員会議で話し合っている。また、急変時のフローチャートも作成、各ユニットの見やすい位置に掲示、職員が共有できるようにしている。		
35	(13)	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯、夜勤帯想定避難訓練を月1回実施し災害に備えている。特に新人職員には避難用具、消火器、消火栓の位置、避難場所までの経路を確認するよう徹底している。また、地域の消防署と連携し夜間想定避難訓練を年1回実施している。また、当グループホームは川に近い場所にあるため水害時などは近くにある同法人建物(4階建て)に非難するなど協力体制も整っている。	日勤帯、夜勤帯想定避難訓練を月1回実施し災害に備えている。特に新人職員には避難用具、消火器、消火栓の位置、避難場所までの経路を確認するよう徹底している。また、知己の消防署と連携し夜間想定避難訓練を年1回実施している。また、当グループホームは川に近い場所にあるため水害時などは近くにある同法人建物(4階建て)に非難するなど協力体制も整っている。	事業所の立地条件や地域特性など固有のリスクを把握し、月1回、基本的な避難訓練を利用者と共に、訓練後の課題を明確化し、次に活かすよう努めています。地域消防団など地域との連携を図る事の重要性を感じています。	地域の消防団、運営推進会議のメンバー等、地域住民と共に事業所固有の特性を把握し、災害が発生したらどのように行動するかなど、日頃から地域住民と連携を図ることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	〇一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアで入居者の自尊心やプライバシーを守る言葉かけや対応を心がけている。また、配慮に欠けるケアをしている職員にはその都度、理由や根拠を説明し入居者の尊厳やプライバシーを守るケアの実践ができるようにしている。	日々のケアで入居者の自尊心やプライバシーを守る言葉かけや対応を心がけている。また、配慮に欠けるケアをしている職員にはその都度、理由や根拠を説明し入居者の尊厳やプライバシーを守るケアの実践ができるようにしている。	トイレのドアが開けっ放し、自分が言われて嫌なこととはしないなど、全職員で具体的に確認し合い、目立たずさりげないケアを心掛けています。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム芙蓉

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西館)	ユニット名(東館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	オー分ブクエスチョンなどを用い、言葉を引きだし本人の意思や意向を確認、実行できるよう支援している。会話のできない方、想いをうまく表現できない方に関しては、表情、行動の観察、言葉かけを行い、何をしたいかなど自己決定できるように働きかけている。	オー分ブクエスチョンなどを用い、言葉を引きだし本人の意思や意向を確認、実行できるよう支援している。会話のできない方、想いをうまく表現できない方に関しては、表情、行動の観察、言葉かけを行い、何をしたいかなど自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	入浴や買い物、外出など希望や、その方のライフスタイルに合った1日が過ごせるよう意見、意向を聞き希望に添えるよう支援している。	入浴や買い物、外出など希望や、その方のライフスタイルに合った1日が過ごせるよう意見、意向を聞き希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服、服飾品など好みのものを選んで頂いている。就寝前にはパジャマに着替え、昼と夜、メリハリのある生活ができるよう支援している。	洋服、服飾品など好みのものを選んで頂いている。就寝前にはパジャマに着替え、昼と夜、メリハリのある生活ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主菜、副菜は湯せんで温めるだけのものを使用しているが、味噌汁やおやつは手作りが多く、特に味噌汁などは、具材を職員とともに近くのスーパーに買いに行き選び、入居者が主体となって調理している。配膳や盛り付け、刻み食作り、食器の片付けも毎日一緒にやっている。	主菜、副菜は湯せんで温めるだけのものを使用しているが、味噌汁やおやつは手作りが多く、特に味噌汁などは、具材を職員とともに近くのスーパーに買いに行き選び、入居者が主体となって調理している。配膳や盛り付け、刻み食作り、食器の片付けも毎日一緒にやっている。	利用者と職員と一緒に近くのスーパーに出かけ、大根や白菜など旬の材料やおやつなどの材料などの買い物をして、男性の利用者も一緒に調理や盛り付け、配膳、片付け等を行っています。重度の利用者も同じ食事を楽しんでもらえるよう、ソフト食など工夫や配慮がされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の心身状態、嚥下状態、体重の増減、食の好みなどを把握し、健康維持に必要な量や栄養バランスに配慮した食事、間食、水分などを提供している。	一人一人の心身状態、嚥下状態、体重の増減、食の好みなどを把握し、健康維持に必要な量や栄養バランスに配慮した食事、間食、水分などを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前に必ず口腔体操、毎食後口腔ケアを行っている。また、入居者、ご家族の希望や必要があれば定期的な歯科往診、歯科衛生士訪問を取り入れ、口腔ケアの充実にも努めている。	食事前に必ず口腔体操、毎食後口腔ケアを行っている。また、入居者、ご家族の希望や必要があれば定期的な歯科往診、歯科衛生士訪問を取り入れ、口腔ケアの充実にも努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄することを基本にしている。オムツを使用する際にはその方の排泄パターンを把握し、その方に適した交換時刻、パッド類の選定をしている。看取り期の2名を除く7名がトイレで排泄している。	トイレで排泄することを基本にしている。オムツを使用する際にはその方の排泄パターンを把握し、その方に適した交換時刻、パッド類の選定をしている。全入居者がトイレで排泄しており、9名中8名がパッドを使わず布パンツで過ごすことができている。	一人ひとりの排泄パターンを全職員が把握し、パッド使用の場合は、その使用頻度を数字で表し、見直しを行っています。行きたい時にトイレに行く支援を行い、個別の支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれの便秘の原因究明を職員間の情報共有にて行い、その方にあった支援を行っている。具体的には1日1500cc以上の水分摂取励行、朝一番に牛乳を飲む、排泄パターンをつかむことで適切な時間にトイレ誘導しトイレに座っていただくなどの支援を行っている	それぞれの便秘の原因究明を職員間の情報共有にて行い、その方にあった支援を行っている。具体的には1日1500cc以上の水分摂取励行、朝一番に牛乳を飲む、排泄パターンをつかむことで適切な時間にトイレ誘導しトイレに座っていただくなどの支援を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそって支援をしている	基本的には毎日入浴が望ましいが、年齢的なもの、体調などで実現できない方もいる。本人の意思に合わせて、週に最低2回以上の入浴ができるよう支援している。入浴時間も本人のペースに合わせている。	基本的には毎日入浴が望ましいが、年齢的なもの、体調などで実現できない方もいる。本人の意思に合わせて、週に最低2回以上の入浴ができるよう支援している。入浴時間も本人のペースに合わせている。	ゆず湯や入浴剤を活用し、季節感や香りを味わうなど入浴を楽しんでいただく工夫を凝らしています。入浴を拒否される利用者、リスクの高い利用者には、声掛けや対応の工夫、チームプレイで入浴支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人一人の状態に合わせ、自分の想いを表出できない方には表情、言動の観察、言葉かけを行い、入居者の状況を見極め、臥床、休息を勧めている。夜間は安眠できる環境整備(室温、湿度、リネン、照明など)をしている。	入居者一人一人の状態に合わせ、自分の想いを表出できない方には表情、言動の観察、言葉かけを行い、入居者の状況を見極め、臥床、休息を勧めている。夜間は安眠できる環境整備(室温、湿度、リネン、照明など)をしている。		



自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム芙蓉

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(西館)	ユニット名(東館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居差が確実に内服できるよう職員が支援している。内服の効果が表れているか、副作用がないかなど、職員が確認し、各専門職との連携も密に取り合っている。	入居差が確実に内服できるよう職員が支援している。内服の効果が表れているか、副作用がないかなど、職員が確認し、各専門職との連携も密に取り合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の一人一人に合った役割を持ち、日々を過ごせるようにしている。それは多岐にわたり、買い物、炊事、洗濯、掃除のみならず、日めくりをめくる、その日の天気カレンダーに付けるなどの役割を持った方もいる。	入居者の一人一人に合った役割を持ち、日々を過ごせるようにしている。それは多岐にわたり、買い物、炊事、洗濯、掃除のみならず、日めくりをめくる、その日の天気カレンダーに付けるなどの役割を持った方もいる。在宅時、お酒が好きだった方のために毎晩、ノンアルコールビールを提供、晩酌を楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症の流行により実現できない場面も多かったが、衣替えの季節にショッピングセンターに出かけ時期に合った洋服を購入したり、近くのスーパーに買い物、公園に散歩に出たりしている。家族と選挙投票に行く予定も立てたが感染拡大により、見送りになったというエピソードあり。	コロナウイルス感染症の流行により実現できない場面も多かったが、衣替えの季節にショッピングセンターに出かけ時期に合った洋服を購入したり、近くのスーパーに買い物、公園に散歩に出たりしている。家族とお墓参りに行く予定を立てていた方も感染拡大により、中止となった。	食材の買い物や洋服の購入、散歩、行きつけの美容院などに行き、街並みを見て昔馴染みの話などしながら支援しています。また車いす対応の利用者も、車いすで公園等を散歩しています。外出時は写真を撮り、家族等に送信しています。その人らしく暮らし続けるための外出支援に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材の買い物に行く際は支払いを入居者に任せている。また、パンの訪問販売が来所した時には店員さんに値段を聞きながらパンを選ぶなど金銭感覚を保持できるような支援をしている。	食材の買い物に行く際は支払いを入居者に任せている。また、パンの訪問販売が来所した時には店員さんに値段を聞きながらパンを選ぶなど金銭感覚を保持できるような支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を手作り(貼り絵)しコメントや住所、名前が書ける方には書いていただき、ご家族あてに出した。また、作成している様子を動画撮影し、元旦にご家族に送信、手作り年賀状であることを知らせ、作っている過程を見ていただくことで受け取ったご家族の反応も大変良かった。	年賀状を手作り(貼り絵)しコメントや住所、名前が書ける方には書いていただき、ご家族あてに出した。また、作成している様子を動画撮影し、元旦にご家族に送信、手作り年賀状であることを知らせ、作っている過程を見ていただくことで受け取ったご家族の反応も大変良かった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度、採光などを管理し居心地よい空間づくりの工夫をしている。季節感を感じられる空間となるよう季節の花、植物、展示物をフロアに飾るようにしている。また、レクリエーションや普段の様子を写真に撮り、掲示することでご家族も来所時、普段の様子を知ることができるよう工夫している。カレンダー、日めくり、干支をモチーフにした掲示物なども掲示している。	温度、湿度、採光などを管理し居心地よい空間づくりの工夫をしている。季節感を感じられる空間となるよう季節の花、植物、展示物をフロアに飾るようにしている。また、レクリエーションや普段の様子を写真に撮り、掲示することでご家族も来所時、普段の様子を知ることができるよう工夫している。カレンダー、日めくり、干支をモチーフにした掲示物なども掲示している。	フロアには、季節の草花や仲間との写真など展示したり、地域の風景や絵画を飾ったりしています。気の合った仲間とゆっくりソファに座り、家庭的な雰囲気があります。夜は、みんなと一緒にお茶を飲みながらゆっくり過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファを置いたり、座席の移動を自由に行えることで、気分転換や気の合う入居者同士が集えるよう工夫している。	共有空間にソファを置いたり、座席の移動を自由に行えることで、気分転換や気の合う入居者同士が集えるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊りの部屋は、本人と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを生かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の中には入居者や家族と相談し、使い慣れたテレビや、家具、家族、ペットの写真、息子が幼い頃の写真を飾ることで自宅に近い環境を整え居心地よく過ごせる工夫がなされている。	居室の中には入居者や家族と相談し、使い慣れたテレビや、家具、家族、ペットの写真、家族写真などを飾ることで自宅に近い環境を整え居心地よく過ごせる工夫がなされている。また、夫婦で入居されている方は、一部屋を寝室とし、ベッドを2台置き、一部屋をリビングとして使うなど自宅のような雰囲気味わえる工夫をしている。	居室からは、四季折々の季節の風景が眺められ、テレビや仏壇、家族との写真等が飾られ、居心地の良い場となっています。掃除は、お互いに応援し合ったりして、利用者同士の助け合いも行われており、温かい雰囲気でお安心して暮らせられる環境となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所に手すりの配置配置や段差の解消など、安全に配慮した作りとなっている。壁面には日めくりカレンダー、月ごとのカレンダー、時計の掲示をしている。トイレはわかりやすく明示している。居室の入り口に入居している方の名前を貼るなどしてわかりやすくしている。	必要な場所に手すりの配置配置や段差の解消など、安全に配慮した作りとなっている。壁面には日めくりカレンダー、月ごとのカレンダー、時計の掲示をしている。トイレはわかりやすく明示している。居室の入り口に入居している方の名前を貼るなどしてわかりやすくしている。		